

子をぞまいらせけるにもてまいりあふべきならねば、よひよりぞまうけてをかれけるなりとをのぬしの、まだ六位にてはじめてまいらる、夜御くつびつのもとにいられたりければ、ひつのうち、物のほとくとしけるが、あやしさに、くらきまぎれなれば、やをらほそめにあけて見給ひければ、きじのおとりはかゝまりをる物か、人のいふ事はまことなりけりと、あさましくて、人のねにけるおりに、やをらとりいでつ、ふところ、にさし入れて、冷泉院の山にはなちたりしかば、ほろくとびてこそいにしか、ことしえたりし心ちはいみじかりしものかな、それにぞ我はかう人なりけりと、おほえしかとなんかたられける。

〔左經記〕寛仁四年十月七日甲申、人々云、教書殿東砌上有雉云々、召陰陽師於藏人所有御卜、火事、兵亂、

雉進獻贈興

〔延喜式〕三十九内膳節料

參河國正月三節各三擔〇中略右參河國進雉

〔扶桑略記〕朱雀二十五裏書承平三年四月一日、若狹國貢進雉、四足卵子等。

〔源氏物語〕行幸二十九藏人の左衛門の尉を御使にて、きじ一枝たてまつらせ給ふ、おほせごとにはなにとかや、さやうのをりのことまねぶに、わづらはしくなん、

雪ふかきをしほの山にたつきじのふるき跡をもけふは尋ねよ

〔大和物語〕下おとこ、女のきぬをかりきて、いまのめのがりいきて、さらに見えす、このきぬをみなきやりて、返しをこすとて、それにきじかり、かもをくはへてをこす、人の國にいたづらに見えける物どもなりけり、さりける時に、女かくいひやりける、

いなやきじ人にならせるかり衣我身にふればうきかもぞつく

〔安東郡專當沙汰文〕元徳元年己巳十一月注之

一 毎年二月亥子日、鉏山神事之時、山鳥雄一羽宛、政所大夫、出納所大夫、方各一羽宛進之、號、亥子之鳥、〇中略